



JAPAN EAST REGION

ワイズメンズクラブ国際
The International Association

東日本区
Men's Clubs



Change! 2022 ニュース

No. 11

Change! 2022 推進委員会 2020. 5. 15 発行

▼ 会員増強に思う

「 デジタルとアナログ 」

Change! 2022 推進委員・ITアドバイザー

大久保 知宏 (宇都宮)



新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、クラブとしての活動も停滞も余儀なくされています。そんな中でも絆を繋いでいく方法として、IT ツールを活用した工夫がいろいろな場面で行われています。渡辺大輔さんが

前号で多くのツールをご紹介いただいていますので、ぜひご活用いただければと思います。宇都宮クラブでも、役員会を LINE のグループビデオ通話で、例会をブログのコメント機能を利用したもので行っています。一つのブログにコメントを残していくことで意見交換する仕組みですが、後から読み返すこともできるので、思わぬ効果を生んでいます。

私は今号では、ポストコロナの会員増強について意見を述べさせていただきます。Change! 2022 委員会ではクラブの情報提供の方法として Facebook を推奨しています。まだ全クラブにはなっていませんが、多くのクラブがクラブの情報提供を始めています。こうしたデジタルの活用は情報を多くの人に伝えることに優れています。紙に印刷して配布されるブリテンに比べて、東日本区のウェブサイトに掲載されているデジタルのブリテンは、情報の伝播力という点で、はるかに強いものになっています。また、E メールはその情報の伝達スピードに手紙とは比べようがありません。

しかしながら、ネットでいつでもニュースが見られる時代でも、部数は減っているものの新聞は発行されています。また、LINE で年賀の挨拶が普通にされるようになって、こちらでも減少は著しいもの

がありますが、年賀状が出されています。私は高校入学のお祝いに出始めのデジタル時計を貰いました。今、使っているのは Apple Watch ですが、文字盤はアナログになっています。このようにデジタル社会が進む中でも、アナログな要素を求める気持ちが人間の中にはあるのではないかと思います。

さて、コロナが終息したときに、多くの人はその後もソーシャル・ディスタンスを意識した行動を求めるような気がします。新入会員を勧誘するために、クラブでは例会に招待する手法をとりますが、お誘いした方が、多くの人々の集まる例会に参加することを避ける傾向が出てくると思います。そうした状況が出る中で会員増強を進めるためには、Facebook や例会や活動の LIVE 配信など、デジタルツールを駆使してクラブの楽しさを伝える範囲と頻度を拡大させることが必要と考えます。

しかしながら、そうしたアプローチを補完し、クロージングとして入会の決断をしていただくためには、紹介者の個人的なアナログで伝統的な動きが欠かせないと思います。大人数での集まりは避けるものの、少人数の集まりには飢えた状況が続きますので、そうした少人数の集まりを企画していくことや、敢えて E メールでの連絡ではなく、アナログな手紙を出すことなどで、損なわれた絆を求める心に響くことになると思います。デジタルとアナログを上手に組み合わせた会員増強を目指しましょう。

《 大久保知宏さんのプロフィール 》

- 1961年3月 いわき市生まれ
- 1991年ごろ とちぎ YMCA さくらんぼ幼稚園に子どもたちが通う
- 2006年3月 宇都宮ワイズメンズクラブ入会
- 2010年8月 横浜国際大会プログラム委員で参加
- 2011年7月 東日本区ユース事業主任
- 2013年～ ITアドバイザー
- 2020年7月 東日本区次期理事

▼ 各部 会員増強事業主査より

「 会員増強 Change! 2022 で思うこと 」

湘南・沖縄部主査 山田 一男 (金沢八景)



湘南・沖縄部EMC主査として、会員増強の難しさを感じた任期でした。現在はコロナで全てが止まっている状態ですが、それだけでなく会員の増強活動は苦勞するところでした。現在の日本では、ワイズメンズクラブだけでなく、ライオンズクラブ、ロータリークラブ等も会員の減少となっています。

日本人は昔より、小さい単位の助け合いの組織を持っていましたが、戦後の生活に追われる中で無くなっていきました。生活面が安定した頃(経済発展)、広い意味のボランティアの考え方が復活してきました。

ロータリー・ライオンズ等が、知人・友人等の勧誘などにより大きくなりましたが、ボランティアの精神を中心に、宗教色は薄めとなりました。

このような環境のもと、各クラブでは拡大してきましたが、その後、生活面だけでなく、精神面で各クラブの退会が目立つようになり、私たちワイズメンズクラブの一般会員も、多少宗教色のあるクラブの会員に勧誘しづらいつつなっています。

このような中で、各ワイズメンズクラブの地域特色を生かして、地域に活動の場を広げて、ワイズの存在をアピールしていくのが重要であると思われます。現在では、ワイズメンズクラブが地域の中であまり認識されていません。広く知っていただくための活動を中心に置くべきと考えます。

本年は、湘南・沖縄部として、沖縄に新クラブの設立を思っていたのですが、コロナ感染で決定になりませんでした。残念ですが、この後の機会に次の人をお願いしたいと思います。

▼ 各部 エクステンション委員長より

「 新クラブ設立への想い 」

北海道部E委員長 二本松 能敬 (北見)



北海道部は広い面積に三つのYMCAがあり、それぞれのYMCAをサポートするように札幌に二つ、帯広、北見にそれぞれ一つずつのワイズメンズクラブがあります。皆独自の活動を続けています。

2018年度の東日本区役員会での議論の中で、ワイズは何かの役割を持つ事が望ましいという意見を聞き、なるほどと思いました。勿論ワイズには信条、標語、主題そして目的が定められていますので、もう十分かもしれません、新たに設立するにはそこにしかない、そこだけの設立意義(役割)があると思います。それを見いだすことが新規クラブを作る近道かと思い、北海道部の現状に思いを馳せました。

そこで一つ考えたのが、北海道YMCAが所轄する「チミケップ国際キャンプ場」を支援するクラブはどうか、というものでした。

キャンプの整備や維持には費用がかかります。キャンプだけを見た場合、北海道は冬場の環境が厳しいことなどから、キャンプは夏場だけなので、採算を求めている事業には無理があります。それを少しでも緩和できないだろうか。

と同時に問題となってきたのが、クラブのあり方や賛同者がいるかどうかです。

クラブの人数、例会、会費等々、東日本区定款に従っていくと、チミケップの支援をするためだけにクラブ設立まで必要か、と迷ってしまいます。会費等の負担はかなり大きいものがありますし、例会のあり方を考えた時には、全員広義会員にしてはどうかとさえ思ったりします。

とりまとめていくにはまだまだ時間が必要かと思いつつ日々歩んでいます。

▼ 千葉ウエストクラブ設立準備状況

本紙第2号(2019.8)で設立準備会が立ち上がったニュースを取り上げましたが、その後の進捗状況を、千葉クラブのブリテンより取り上げます。

◆ 3月千葉ウエストクラブ設立準備例会の報告

2020年3月21日の正午～2時前、船橋教会において、千葉クラブから7名、新クラブ入会予定者2名、金丸満雄関東東部部長が出席して行いました。

徐々にクラブ例会の形を整えようと、千葉クラブの例会の順序をやや簡略化してプログラムを進めています。この日は、各自持参の軽食を摂り、予定のメインピック「シルバー体操の実体験」を後日に譲って、新クラブ設立に必要な諸事項の案を協議しました。

例会会場：船橋教会の会堂隣りに改築された真新しい

「信徒館」【写真右】を予定。ほぼ完工し、4月12日のイースターには教会として使い初めの集いをする予



定です。ここをお借りしてYMCAやワイズの活動ができるようにと願っています。

例会日・時間：原則毎月第3土曜日正午から2時まで(当面各自軽食持参。)

クラブ会費：半期18,000円(月額3,000円)

誕生日祝い：例会プログラムに入れる。

クラブ会則：区のモデル会則により(設立総会の前までに)作成し、総会で制定する。

クラブバナー：長尾昌男君考案の図案を採用する(黄色地にクラブ名とワイズマークを入れる)。



クラブバナーはスポンサー(=親)クラブ(千葉です!)が作製して新クラブに贈呈するのが通例です。(上図はほぼ成案。「ウエ」でなく「ウエ」です。)

(以上、千葉クラブ4月号ブリテンより転載)

◆ 4月事務例会での設立準備報告

千葉ウエストクラブ設立総会を6月20日に設定して、長尾設立準備委員長を中心に準備する。(4月の設立準備例会は「コロナウイルス緊急事態宣言」下の外出自粛により休止となり、書面での意見交換で準備を進めました。)

同クラブの国際協会加盟手続きが順調に進めば、10月3日午前からの関東東部大会の中で加盟認証状伝達式(チャーターナイト)を計画します。

◆ 千葉ウエストクラブ準備状況

新クラブの例会会場に想定されている船橋教会の信徒館は完成しましたが、現在はウイルス対策のため礼拝が通常の形で行えず、信徒館のお披露目もまだ行われていません(75歳以上の教会員は感染の恐れがあるので礼拝を休んでいます)。

万一6月20日に設立総会ができない場合は、7月18日の部評議会の日に行うことも考えます。

(以上、千葉クラブ5月号ブリテンより転載)

(コロナウイルス感染状況により、今後のスケジュールについては変更の可能性もあります。)

▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 札埜 慶一(熱海)

4月には、下記の方々が入会されました。(敬称略)

No.	入会者	(クラブ名)	紹介者
1.	菅野 牧夫	(東京八王子)	(担当主事)
2.	細田 泰秀	(熱海)	田中 秀宝

▼ 西日本区では…

新生ワイズ起こし運動
～西日本区の取組み～

西日本区行政監事

大野 勉(六甲部・神戸ポート)

I. はじめに



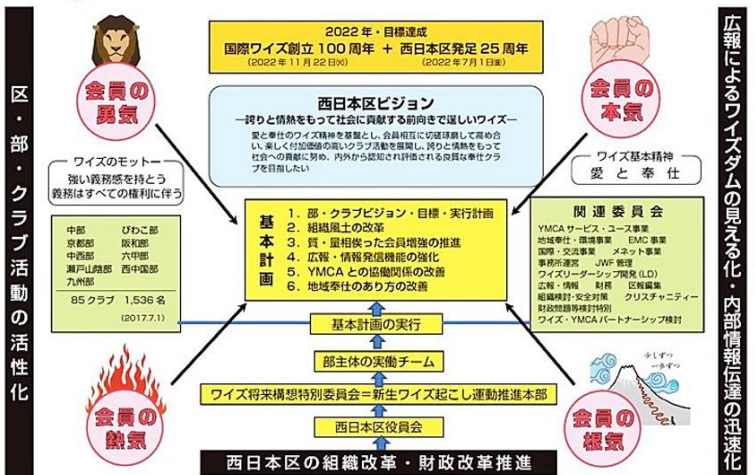
西日本区では、2016年7月、森田恵三ワイズ(京都ウエスト)を委員長として、「ワイズ将来構想特別委員会」がスタートしました。1997年7月に日本区が分区されて以来20年間、東西両区ともにワイズダムの拡大発展を期して取り組んできましたが、期待どおりにはいかず、著しい会員減少と高齢化が進行しています。このような現状に歯止めをかけ、発足時のワイズ力を取り戻し、立て直しを図るために設置されました。また、来る2022年のワイズ100周年を、組織挙げて、新たな決意をもって迎えることを願っています。

構成員は、役員経験者、EMC事業主任、LD委員長等ですが、理事経験者やLD委員会、広報情報委員会等、関連する事業主任等を拡大委員として迎えています。

II. 西日本区新生ワイズ起こし運動

拡大委員会を多く開催したり、全クラブへの実態調査アンケートを実施したりすることで多くの基礎資料を収集し、協議を重ねてきました。その中で作り出したのが、「西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画」です。さらに、それをもとに、『新生ワイズ起こし運動』というタイトルのもと、この運動のイメージ図を作成しました。

ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区新生ワイズ起こし運動



1. 西日本区ビジョン(ワイズの未来に向かっての理想像) 誇りと情熱をもって社会に貢献する前向きで逞しいワイズ
2. 基本計画<重要項目>

- (1) 部・クラブがビジョン、目標、実行計画を設定し、実行に移す。
- (2) 組織風土の改革を進める。
- (3) 質量相まった会員増強の推進を行う。
- (4) 広報・情報発信機能の強化を行う。
- (5) YMCAとの協働関係の改善を推進する。
- (6) 地域奉仕のあり方改善を目指す。

3. 基本計画の実行

ビジョン・基本計画の実現に向けて、情熱と行動力を持続できる献身的で有能な実働チームを編成組織し、2022年に至る具体的な「Action Plan」を設定し、事業として推進することになりました。

Ⅲ. 部主体の実働チーム

基本計画の実行にあたっては、全会員がワイズを愛する情熱を持ち、本気になって心ひとつに取り組み、各期待し、各部に「部主体の実働チーム」を編成していただいています。特別委員会は、実働チームとの強い絆をもって支援活動を展開していくこととし、共に目標達成を目指していきます。

1. 京都部での取組み：京都グローバルクラブ「めざせ！日本No.1クラブ」

日本1位のメンバー数は、国際のTOP10。日本・国際のNo.1の数をメンバーに伝え、頑張れば日本No.1になると、メンバー全員が意識する。そのための具体的な活動を企画、実践する。(No.1ボールペン、マグカップの作成、毎例会にて、本気であることを言い続ける等。) その成果として2月末時点16名の新入会者。日本一は通過点である、とのこと。

2. びわこ部の取組み：新クラブ設立

かねてより悲願の「琵琶湖ネックレス構想」(琵琶湖をとり囲むようにクラブが点在する)の実現に一步前進。湖西地域に新クラブ設立。2020年4月25日(土)設立総会、5月23日(日)国際協会加盟認証状伝達式。

2019年10月10日(木)、今津ヴォーリズ資料館2Fにて湖西地域の市民や奉仕団体との交流を促進するため、湖西地域で活動・活躍中の方々を招き、設立に向けての会合をもった。

2019年11月30日(土)、奥琵琶湖グランドパークホテルにて、「第1回ワイズ地域フォーラム」【写真】、

メインテーマ



「市民の皆さんとワイズメン」を開催。

これらの経緯を経て、新クラブ誕生となった。クラブ名は「高島(たかしま)クラブ」!

3. 六甲部の取組み

六甲部ワイズ起こし運動特別委員会では、YMCA・ワイズ連携しての地域奉仕事業の改善を中心に取り組むこととなった。

各クラブが大切に考えて行ってきた事業を評価し直し、六甲部として今後何を大切にしていけるか検討した。分かったことは、次の3点。

- ①音楽による豊かな地域社会づくり。チャリティーコンサート、バレンタインコンサート、手作りの市民クリスマス等
- ②留学生支援、国際協力 留学生交流会、留学生冬支度支援、国際協力募金等
- ③困難にある人々を覚え、多様な個性を尊重する活動：希少難病患者支援、障がい者のアート展(キラリと輝くアート展)、WACCA、WAP支援等

このような地域奉仕活動をYMCAと協働で行い、互いのもつ力で相乗効果を上げることで、認知度を広めようということになった。

4. 中西部の取組み

現部長を中心に「中西部ワイズ起こし運動2019-2022」が発足。ビジネスというカテゴリーで様々な課題に日々取り組んでいるワイズメンを対象に、メンバー同士の交流、メンバー自身での課題解決、自己研鑽を目的として、「関西ワイズビジネス交流会(仮称)」を結成した。

5. EMC事業主任の取組み

「西日本区発展アクションプラン」作成。EMC事業の中で、これまでの事例をポジティブにとらえ、クラブ発展の共通要因を見出し、自分たちの部やクラブにあった発展計画に活用するため作成された。1時間17分に及ぶビデオ大作である。

「西日本区発展アクションプラン」解説動画(再編集版)

<https://youtu.be/avZMPyvXF1w>

【読者の皆様もぜひご覧ください。お勧め！=編集委員長】

Ⅳ. 道半ば “On the half way”

今期(2019-2020年度)理事の取組みの中で、「理事懇談会(各部にて開催)」が目玉。理事キャビネットが各部へ出かけ、部長、各会長らと懇談会をもち、双方向での情報共有を行った。「区と部、クラブの距離が近くなった。」「言いたいことが言えた。互いに聞き合えた。」と好評であった。ワイズの活動は、一人一人の思いを出し合い、磨き合い、切磋琢磨し合うことで意義ある活動となると確信している。2022年まであと2年である。道半ばではあるが、皆が思い描くゴールを目指して、「新生ワイズ起こし運動」に力を注いでいきたい。